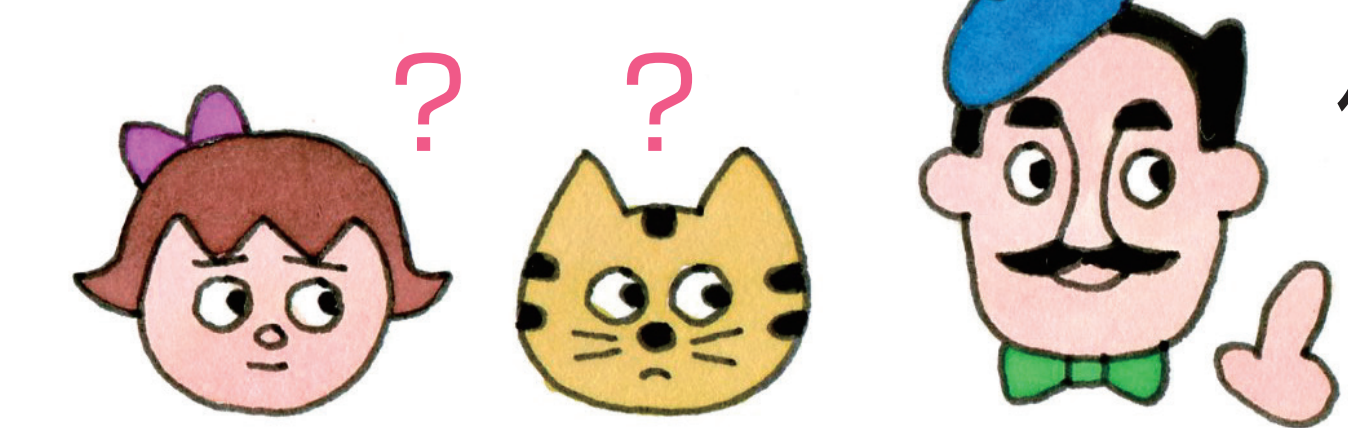


# 池袋モンパルナスってなに？



1930年代。つまり、今から80年ぐらい前、現在の地下鉄有楽町線・副都心線の千川駅や要町駅付近には、芸術家を志す若者向けのアトリエ付き貸家が建ちならんでいたのだ。

アトリエってなに？



画家や彫刻家たちの仕事場のことだよ。



若い芸術家たちは、ここで数々の創作活動に没頭しながら、青春の一時期を過ごしていたのだ。



アトリエ付き貸家の集まりは、“アトリエ村”と呼ばれたんだ。

すすめが丘アトリエ村、さくらが丘パルテノン、つつじが丘アトリエ村 といったアトリエ村が、豊島区の長崎地域に点在したんだよ。



池袋の喫茶店や酒場で、芸術、生活、現実、未来のことなどいろいろなことを語りあったんだよ。



千川駅・要町駅付近から池袋駅界隈にかけて、アトリエ村の住民も含め、画家・彫刻家・詩人・文士・音楽家・俳優などの芸術家たちが、分野や流派を超えて集い、熱く語りあう、交流の場がつけられていたんだ。

情熱をかきたてるこの交流のエネルギーに、詩人の小熊秀雄は、フランスのパリ南部に位置し芸術の中心地であったモンパルナスの名をとり「池袋モンパルナス」と呼んだんだ。

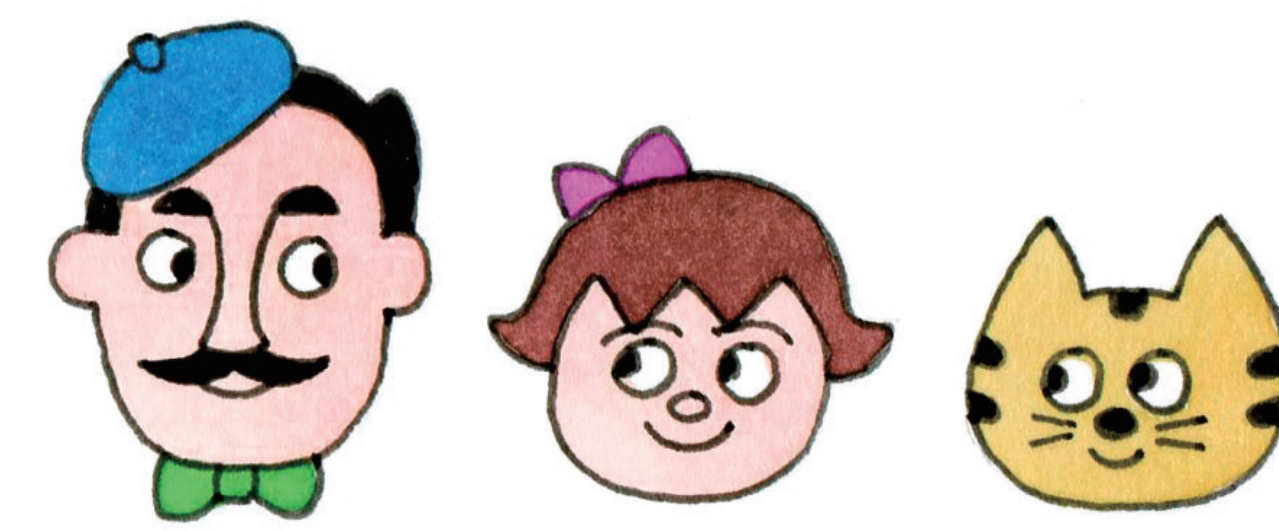


池袋モンパルナスに夜が来た…



芸術家たちの自由な交流の場に生まれた池袋モンパルナスの心は、私たちに大事なことを語りかけてくれるんだよ。

それでは昔の池袋にいて、アトリエ村の誕生をみてみよう。



100年前にひととび〜

